

令和4年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立久喜工業高等学校)

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 「ものづくり」や「体験」を通して「技術」「学力」を身につけ、地域の信頼と期待に応え社会の変化に対応できる人材を育成する学校 |
|--------|---|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1 個に応じた学力と技術の向上を推進する。 授業内容・指導方法の充実を図る。資格取得等を奨励する。 2 基本的な生活習慣を確立し、規律ある生徒を育成する。 欠席、遅刻、早退の減少を図る。服装・頭髪・挨拶の指導を徹底する。 3 一人一人の進路希望を実現する。 生徒の職業観や勤労観を育成するとともに、進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。 4 地域の信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。 中学生やその保護者及び地域に積極的な情報提供を行う。地域行事等へ参加し地域連携を行う。 |
|------|--|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | | |
|-----|---|-------|--------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 | (8割以上) |
| | B | 概ね達成 | (6割以上) |
| | C | 変化の兆し | (4割以上) |
| | D | 不十分 | (4割未満) |

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

| | | |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 7名 |
| | 生徒 | 3名 |
| | 事務局(教職員) | 9名 |

| 年度 | | 学 校 自 己 評 価 | | 年度評価 (1月30日 現在) | | | |
|----|---|--|--|---|---|------------|---|
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | | |
| 1 | 【現状】 ・生徒の授業に取り組む姿勢は良好である。生徒アンケートでは意欲的に学習に取り組んでいる生徒の割合は全体の80%程度であり、自ら学ぶ姿勢が見られる。 【課題】 ・生徒アンケートでは授業内容に対する興味関心が全体の70%程度であり、さらなる学習意欲向上のために授業内容に対する興味関心を高めることが課題である。 | ・基礎学力の定着と発展的な学習への対応を実現する。 ・幅広い知識・技術(資格取得を含む)の修得を図る。 | ①各教科の特色に合わせてICT機器を活用し、ICT機器を活用した授業展開を促すことによって、わかりやすい授業を実践する。 ①資格取得やコンテスト・大会等に必要知識・技術と授業の関連性を持たせ、目的意識の向上につなげる。 | ①12月に実施する生徒アンケートで「久喜工高の先生は、わかりやすい授業の実施や、興味・関心を高める工夫をしている」と回答した生徒を全体で前年度比5%増にできたか。 ①12月に実施する生徒アンケートで「私は、授業の内容に興味・関心がある」と回答した生徒を全体で前年度比5%増にできたか。 | 生徒アンケートで「久喜工高の先生は、わかりやすい授業の実施や、興味・関心を高める工夫をしている」と回答した生徒の割合は前年度79%に対して今年度86%であった。 生徒アンケートで「私は、授業の内容に興味・関心がある」と回答した生徒の割合は前年度67%に対して今年度は66%であった。 | A B | 授業内でICT機器の活用できる範囲を広げ、授業内容の深化を進める。 授業内容に対する興味関心は学年が上がるごとに減少する傾向があるので、学習に対する意欲が持続できるように授業改善を進める。 |
| 2 | 【現状】 ・大多数の生徒は学校生活において望ましい基本的な生活習慣と態度が身につけている。また、昨年度の問題行動は7件で、生徒指導に関わる退学者および進路変更者は0名である。 【課題】 ・各学年と連携を図りながら指導を徹底し、生徒の規範意識をより向上させることが課題である。 ・昨年度は問題行動が増加したので、未然防止策を更に検討し、教職員全体できめ細かい指導を計画的に実施することが課題である。 | ・基本的な生活習慣確立のための遅刻指導や挨拶指導を重点的に継続する。 ・問題行動を起こさせない、退学および進路変更者を出さない指導を充実させる。 | ①登下校指導、挨拶指導、巡回指導を年間10週以上実施する。 ②身だしなみ指導を年間5回以上実施する。 ③自転車の交通安全教室、自転車点検を実施する。 ①生徒対象のいじめアンケートを実施する。 ②生徒対象の講習会(非行防止・薬物乱用防止、いじめ・SNS関連)を実施する。 ③教職員対象の研修会(特別支援教育、発達障害に関する研修)や教育相談を定期的に実施する。 | ①遅刻数の少ない状態を維持できたか。挨拶できる生徒、身だしなみが整っている生徒を前年度より増加できたか。 ②12月に実施する生徒アンケートで「久喜工高は遅刻防止指導に、計画的に取り組んでいる」「久喜工高は服装・頭髪などにきちんと指導を行っている」と回答した生徒をそれぞれ全体の85%以上にできたか。 ③自転車乗車中をはじめとする交通事故を前年度より減少できたか。 ①いじめを未然に防止する取組が実践できたか。 ②少ない問題行動(指導件数)の状況を維持できたか。 ③教職員対象の研修会や特別支援委員会の内容が充実し、生徒指導に関わる退学および進路変更者を少なくできたか。 | ①登下校指導を年間10週実施した。年間の遅刻総数は微増し、挨拶できる生徒と身だしなみが整っている生徒は前年度と同等である。 ②生徒アンケートで「久喜工高は遅刻防止指導に、計画的に取り組んでいる」と回答した生徒は77%、「久喜工高は服装・頭髪などにきちんと指導を行っている」と回答した生徒は89%であった。 ③交通事故は、自転車乗車中の事故が5件で昨年度と同じ件数であった。 ①アンケートや生徒指導に関する講習会等で現状把握と抑止に努めることができた。 ②問題行動(指導件数)は、8件で昨年度より1件増加したが、直近10年では3番目に少ない件数であった。 ③「自殺防止」に関する研修会を実施し、教職員の知識・資質が向上した。久喜特別支援学校との連携指導を継続できた。生徒指導関連で退学や進路変更した生徒は3名。 | B A | ・今年度も2学期に遅刻数が増加したので、改善策を検討する。 ・身だしなみ指導は日頃からの指導を徹底し、繰り返し指導を受ける生徒を減少させる。 ・交通事故防止の指導を強化し、自転車盗難被害防止モデル校の活動を推進する。 ・問題行動が増加したので、未然防止策を更に検討すると共に全教職員できめ細かい指導にあたることのできる体制をつくる。 ・問題を抱え支援を必要とする生徒の実態把握に努め、丁寧に対応することが課題である。久喜特別支援学校や精神保健福祉センターとの外部連携を継続する。 |
| 3 | 【現状】 ・進路未定者を出さないため、計画的なキャリア教育を実践している。その結果11年連続就職率・進学率100%を達成している。 【課題】 ・進路意識の希薄に起因した、一部の生徒が進路決定に時間を要している。そのため、入学当初からの学年と協力した計画的な進路指導を行うことが課題である。 | ・就職率・進学率100%を実現する。 ・6年連続で就職試験1回目の合格率の80%以上を継続させる。 | ①企業との情報交換会へ積極的に参加して情報収集を推進する。 ②進路指導部と第3学年の連携を密にして情報を共有する。 ①求人との面談シート内容を工夫するなど、面談の内容の質を高めて生徒へ適切な情報提供を行う。 ②各学年の進路ガイダンス等の行事や進路相談を通して、進路に意識を高めさせ進路決定のサポートをしていく。 | ①新規に開拓した企業が前年度より増加できたか。 ②12月に実施する生徒アンケートで「進路決定にむけて、生徒の希望や保護者の期待に応えている」と回答した生徒を全体の80%以上にできたか。 ①求人件数を維持して生徒の選択肢を確保できたか。 ②生徒の実になる進路行事ができたか。3年生は進路対策に向けた面接指導が5回以上実施できたか。 | ①流通業を中心に新規の求人数は前年度より増加した。 ②生徒アンケートで「進路決定にむけて、生徒の希望や保護者の期待に応えている」と回答した生徒の割合が90%であった。 ※1月末現在で就職決定率99.2%、進学決定率95.7%である。 ①求人件数は昨年度約2500件に対し、今年度は約2700社と増加した。 ②面接指導は6月の三者面談の時期に合わせて開始し、就職試験までに5回以上実施できた。 ※就職試験1回目の合格率は83.6%であり、昨年の81.1%よりも向上した。 | A A | ・生徒の希望する進路選択ができるよう情報提供を適切に行う。 ・就職率・進学率100%達成を早期に実現する。 ・引き続き就職試験1回目の合格率80%以上を継続させる。 ・進学者の割合が増えた分、就職者が減少して、企業の期待に応えられなかったという一面もあるので、企業との情報交換を密に行い、信頼関係を強固にする。 |
| 4 | 【現状】 ・広報部が生徒募集行事(学校説明会、体験入学等)の企画運営を行っている。昨年度入試では、定員を満たすことができなかった。欠員補充によっても定員を満たせておらず、先行きは不透明である。 【課題】 ・本校の教育活動を中学生や保護者、地域住民に対して、あらゆる手段を活用し継続的に幅広く発信することが課題である。 ・地域の各種イベントや行事等に積極的に参加し、地域に根ざした高校として貢献していくことが課題である。 | ・情報発信を積極的にに行い、本校への理解を深めていくとともに、入学志願者を確保する。 ・様々なイベントや行事等に積極的に参加し、地域に根ざした高校として貢献する。 | ①ホームページや学校案内等の資料を活用し、日頃の教育活動について情報を発信する。 ②学校PR資料「久喜工だより」を各学期ごとに作成し、中学校等に向けて配布する。 ③学校説明会を計画的に実施する。 ①感染症対策を施したうえで、地域のイベントや行事および小中学校や児童センターとの交流事業を継続して実施し、年間5回以上の対外的な活動を実施する。 | ①ホームページを頻繁に更新し、アクセス回数を前年度より増加できたか。 ②学校PR資料「久喜工だより」を各学期ごとに作成し、中学生等に向けて配布できたか。 ③学校説明会を感染症対策を施し、安全かつ計画的に実施できたか。 ①地域のイベント・行事および、小中学校や児童センターとの交流事業を継続して実施し、年間5回以上の活動を実施できたか。 ②12月に実施する生徒アンケートで「久喜工高は、地域から良い学校だと評価されている」と回答した生徒が全体の70%以上にできたか。 | ①ホームページの更新は月平均13回程度と頻繁に実施できた。アクセス数も49.5万回超となり、昨年度の22万回超から大幅に増加した。 ②③コロナ禍の影響で例年通りとはいかなかったが、学校説明会を安全かつ計画的に実施し、その度に各学期ごとに作成した「久喜工だより」を配布することができた。 ①コロナ禍の影響で出前授業等や産業教育フェア等のイベントや交流事業の機会が激減したが、本校ホームページ上に学校紹介動画を公開したり、ニュース、学校案内冊子の充実をはかるなど補充できた。 ②生徒アンケートで「地域から良い学校だと評価されている」と回答した生徒の割合が73%であった。(「そう思う」「やや思う」の合計) | A A | ・第一希望志願者の倍率が全学科1倍を超えるように、全職員の協力を得ながら、ホームページの更新、生徒募集行事を行う。 ・ホームページ等で先輩のノートやレポート等がどんなものか事前にわかれば中学生にもわかりやすいのではないか。 ・中学生には夏休みから学校説明会等に参加するように促している。説明会等を実施するのは大変だとは思いますが、やってみよう。 ・コロナ禍で制限があるが、工業教育の良さを引き続き発信してほしい。 ・地域のお年寄りを高校生が助ける、そういった訓練の場を設けてほしい。防災拠点として、地域の方々も含めた防災訓練をしても良いのではないか。 |

| | |
|-------------------|---|
| 学校関係者評価 | 実施日 令和5年1月31日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用により授業が分かりやすいとの割合が増えた(79%→86%)のは評価できる。次年度も継続を望む。 ・タブレットの導入が始まると、個々の学びが深まるかと思う。対面授業と連携させてほしい。 ・中学校時代履いていた生徒が高校では楽しいと言っている。資格取得の推奨など生徒の夢や希望を抱かせる工夫はできているのではないかと継続してほしい。 ・調べる項目が多いが、とても勉強になるのでレポートはいいと思う。先生が淡々と話していると眠くなるので、話し合う機会を授業で設けてもらえるといい。 ・挨拶運動では思っていた以上に挨拶をしてきていた。数年前から比べて挨拶ができる生徒が増えている印象がある。 ・登校の様子も最近はやや落ち着いたと思う。 ・小さいことでもしっかり指導してほしい。 ・家庭との連携がポイントになるかと思う。生活とともに学習も含め習慣化できればと思う。 ・退学・進路変更が0名になるよう更なる指導をお願いしたい。 ・校則を含め、なぜこのルールがあるのかを生徒とともに考え続ける必要があるかと思う。 ・就職希望と進学希望の割合が逆転している理由がよくわかり、また、先生のそれに対する意見もよく理解できた。 ・保護者が生徒の意見を尊重して進路を決めさせるのが良い。高校の方でしっかり指導して、進路を考えさせたほうが良いと思う。 ・インターンシップが良かった。2～3年前に卒業した方の企業等へ1週間くらい体験学習(実習)で職場体験することにより更なる知識やモチベーションアップになると思う。 ・数値目標に捉われず、生徒の資質を適格に捉え、それに見合ったキャリアデザインを共に考えてほしい。 ・高校ではどんなことを学んでいるのかを調べるのにホームページを活用したい。 ・笑顔の多いホームページだとその学校に行きたいと思うのではないかと。 ・ホームページ等で先輩のノートやレポート等がどんなものか事前にわかれば中学生にもわかりやすいのではないか。 ・中学生には夏休みから学校説明会等に参加するように促している。説明会等を実施するのは大変だとは思いますが、やってみよう。 ・コロナ禍で制限があるが、工業教育の良さを引き続き発信してほしい。 ・地域のお年寄りを高校生が助ける、そういった訓練の場を設けてほしい。防災拠点として、地域の方々も含めた防災訓練をしても良いのではないか。 |